

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
考えをもつ場【拡散的思考】	①	<p>地図や統計などの資料を基に、日本の基本的な地形や気候について大観し、日本の地域的特色や気候区分などについて捉える。</p> <p>日本には地理的な特色による様々な地域区分があることを捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】</p> <p>追究課題「日本の地域区分を有効に利用するには、どの視点を重視すべきか」 切り口A「自然環境・気候」 切り口B「人口・産業」</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に、日本の地域的特色について読み取っていると同時に、日本の様々な地域区分について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域的特色や地域区分を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
	②		B	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に、日本の地域的特色について読み取っている、または、日本の様々な地域区分について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域的特色や地域区分を捉えた上で、追究課題を追究しようとする。または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
	③		方法	<ul style="list-style-type: none"> ○発言の内容(①・②) ●「ステップチャート」の記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ステップチャート」の記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言の内容(③) ○「ステップチャート」の記述内容
考えを広げる場【拡散的思考】	④	<p>「自然環境・気候」で区分することが、住む人と訪れる人に及ぼす影響について捉える。</p> <p>「人口・産業」で区分することが、住む人と訪れる人に及ぼす影響について捉える。</p> <p>意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】</p> <p>【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】</p> <p>【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どのような地域区分であれば、有効に利用することができるか」について考える。【RM①】</p> <p>概念的知識「住む人にとって安心して住み続けられる地域とわかり、訪れる人にとって他地域との差が付きやすい区分であれば、有効に利用することができる」</p> <p>【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。</p> <p>概念的知識を他の地域に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】</p> <p>単元テストを行う。</p> <p>意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】</p>	有効に利用できる点(☆)・できない点(★)			
	⑤		身に付けさせたい知識の例	<p>自然環境・気候</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆日本は自然災害が多い地域であり、どのような災害がどの場所でも起こりやすいかを知ることが大切。 ☆気候をいかした生活をするためには、冬に雪の多さや夏の暑さなどで区分することが重要である。 ★どの地域に住んだとしても地震などの災害は防ぐことはできないため、重視する必要はない。 ★温暖化によって、日本の中での気候の差は小さくなっており、気候の違いによる差は重要でない。 	<p>訪れる人の立場</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆旅行先で災害にあうこともあるので、安全に行動するためには、その土地の自然環境を知っておく必要がある。 ☆海水浴やスキーなどのレジャーを楽しむためには、地域ごとの気候の特色を知っておく必要がある。 ★その地域にどのぐらいの購買力や経済力があるか分からないため、経済活動には役立たない。 ★災害はどの場所でも起こる可能性があるため、訪れる人にとってはあまり有効な情報にはならない。 	
	⑥		人口・産業	<ul style="list-style-type: none"> ☆人口が多い地域は交通網が集中しているため、生活しやすい場所がすぐにわかる。 ☆産業によって利益を得ることや働くことは生活に不可欠であるため、区分されていると生活しやすい。 ★人口が多い地域では、どのような災害に対して対策をとる必要があるかわからないので心配。 ★現在の日本は情報網や輸送網が行き届いており、日本のどの地域に住んでいても大きな差はつかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆人口の多い地域・少ない地域がわかると、どの場所でどんな商売をすれば成功するか、予測しやすい。 ☆産業による地域区分を見れば、その地域の名産品や製品がすぐにわかるため、区別が付きやすく、訪れやすい。 ★人口の多い地域は全国各地に散らばっているため、他地域から見て、地域による差がわかりにくい。 ★産業が盛んな地域は太平洋ベルトに偏っているため、それ以外の地域の差がわかりにくい。 	
	⑦		A	<ul style="list-style-type: none"> 切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、住む人と訪れる人の立場ごとに整理して理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
	⑦		B	<ul style="list-style-type: none"> 切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
	⑦		方法	<ul style="list-style-type: none"> ○発言の内容(④・⑤) ●「ステップチャート」の記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ステップチャート」の記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言の内容(⑥・⑦) ○「ステップチャート」の記述内容
	⑧		集団の討論で予想される生徒の発言例	<p>切り口A「自然環境・気候」を選んだ生徒の主張例</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は自然災害が多い地域であり、どの地域でどのような災害の危険があるかを知っておくことは、その土地に安心して住み続けるためには重要である。また、気候にも地域によって特色があり、太平洋側・南西部は主に温暖で、日本海側・北東部は主に冷涼など、地域ごとに差が付きやすい。 <p>切り口A「自然環境・気候」の主張に対する反論例</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自然環境・気候」による区分は、普段の生活や旅行には役立つが、経済活動や仕事にはあまり役立たない。災害は日本全国どこでも起こり得るし、温暖化によって気候の差もあまりつかなくなっている。 <p>切り口A「自然環境・気候」を選んだ生徒の再反論例</p> <ul style="list-style-type: none"> 会社を置いたり工場を建てたりする場合でも、災害の影響を受けやすい地域かどうかを判断するのは重要だし、現在でも太平洋側と日本海側、北部と南部では、気候の差は大きいと言える。 <p>切り口A「自然環境・気候」を選んだ生徒の最終的な主張例</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は様々な変化に富んだ地形がみられ、四季の変化がはっきりしており、地域によって気候の差が大きく、それによって地域の文化や産業に特色が生まれている。それに加えて、最近では自然災害への対策の重要性が言われており、どのような災害がどこで起こりやすいかを知っておくことは、その地域に住む人はもちろん、訪れる人にとっても重要である。切り口Bの「人口・産業」による地域区分だと、経済活動には便利でも、人間の大切な命を守ることはできない。よって、日本の地域区分を有効に利用するには、住む人にとって安心して住み続けられることを判断でき、訪れる人にとっても他地域との差が付きやすい、切り口Aの「自然環境・気候」の視点を重視して区分すべきである。 		
⑨	A	<ul style="list-style-type: none"> 概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。 		
⑩	B	<ul style="list-style-type: none"> 概念的知識を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。 		
⑪	方法	<ul style="list-style-type: none"> ○発言の内容(⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言の内容(⑧・⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容 		

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
考えをもつ場 【拡散的思考】	①	九州地方の自然環境や地域区分、産業などをまとめ、九州地方について大観する。	A ・資料を基に、九州地方に関わる基本的な事項をまとめ、地域の特徴を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・地域の特徴を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。			
	②	地域の特徴を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】				B ・資料を基に、九州地方に関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・地域の特徴を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
		追究課題「九州地方の自然や環境をよりいかにしていると言える地域はどちらか」 切り口A「九州北部(福岡・佐賀・長崎・大分)」 切り口B「九州南部(熊本・宮崎・鹿児島・沖縄)」				方法 ○発言の内容(①) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(②) ○「ステップチャート」の記述内容
考えを広げる場 【拡散的思考】	③	「九州北部」の自然や環境をいかした産業や文化が、地域内と地域外に及ぼしている影響について捉える。	自然や環境をいかしていることにつながる点(☆)・つながらない点(★)					
	④	「九州南部」の自然や環境をいかした産業や文化が、地域内と地域外に及ぼしている影響について捉える。	九州北部	九州南部				
	⑤	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	方法 ○発言の内容(③・④) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑤・⑥) ○「ステップチャート」の記述内容			
	⑥	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼしている影響について、地域内と地域外の立場ごとに整理して理解している。	B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼしている影響について、地域内と地域外に及ぼしている影響について理解している。				
	⑦	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どのような地域であれば、自然や環境をいかしている地域と言えるか」について考える。【RM①】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">概念的知識「地域内の人々が、地域の特徴をいかした生活をしており、地域外の人々が自地域にはない魅力を感じることができれば、自然や環境をいかしている地域と言える」</div>	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口B「九州南部」を選んだ生徒の主張例 ・九州南部は、温暖な気候をいかして、野菜や果物の促成栽培や観光に力を入れている。地域内の人々にとっては、自然や環境に合った産業を行うことで地域の特徴をいかしており、地域外の人々にとっても沖縄のさんご礁や屋久島の縄文杉など他の地域にはない魅力を感じることができると言える。 切り口B「九州南部」の主張に対する反論例 ・九州南部は、他の地域から気軽に訪れるには遠く、東京や名古屋、大阪など主要な大都市からは、飛行機でないと訪れることが難しいので魅力を感じにくい。地域内の人々は、沖縄の海の汚染や鹿児島島の桜島の火山灰など環境に関する問題も抱えており、地域の特徴をいかした生活ができていないのではないか。 切り口B「九州南部」を選んだ生徒の再反論例 ・他の大都市からは遠くても、沖縄や宮崎など一年を通して温暖な九州南部には、毎年多くの観光客が訪れている。これは遠くても、それを上回るような訪れたい魅力を感じているからだと考えられる。 切り口B「九州南部」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・九州北部と比較すると行きやすい場所とは言えないが、九州南部の促成栽培を主とする野菜や果物の栽培は全国的に有名であり、温暖な気候をいかした観光産業も盛んである。地域内の人々はこれらによって生計を立てている人が多く、地域の特徴をいかした生活をしていると言える。また、自地域にはない魅力を求めて、多くの人が九州南部を訪れている。九州北部は工業が中心で、利便性の高い大都市があるが、これは他の地域にもみられる特色である。それに対して、九州南部は、訪れる人にとって、温暖な気候がもたらす他の地域にはない魅力が感じられる。よって、切り口B「九州南部」の方が追究課題にふさわしい。					
	⑧	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	B ・概念的知識を理解している。				
考えを創り上げる場 【収束的思考】	⑨	概念的知識を他の地域に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】 単元テストを行う。	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	B ・概念的知識を理解している。				
	⑩	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法 ○発言の内容(⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑦・⑧) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容			

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
考えをもつ場 【拡散的思考】	①	中国・四国地方の自然環境や地域区分、産業などをまとめ、中国・四国地方について大観する。	A ・資料を基に、中国・四国、東北地方に関わる基本的な事項をまとめ、地域の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・地域の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
	②	東北地方の自然環境や地域区分、産業などをまとめ、東北地方について大観する。				
	③	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	B ・資料を基に、中国・四国、東北地方に関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・地域の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
		追究課題「過疎化を止めるために最も有効な方法は何か」 切り口A「インフラ整備」 切り口B「産業の振興」 切り口C「まちおこし・むらおこし」				
		方法 ○発言の内容(①・②) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(③) ○「ステップチャート」の記述内容		
考えを広げる場 【拡散的思考】	④	「インフラ整備」が、地域内と地域外に及ぼす影響について捉える。	過疎化を止めることにつながる点(☆)・つながらない点(★)			
	⑤	「産業の振興」が、地域内と地域外に及ぼす影響について捉える。				
		「まちおこし・むらおこし」が、地域内と地域外に及ぼす影響について捉える。	地域内の立場			
			地域外の立場			
			インフラ整備 ☆本州四国連絡橋や新幹線の延線などにより、都市部との行き来がしやすくなり、交通の不便さが解消され、定住につながる。 ☆ドクターヘリ、移動販売車などの取組が広がれば安心して生活できるで定住につながる。 ★交通の便がよくなると、日帰り客が増えて観光業に打撃があったり、フェリーや路線バスが廃廃になったりして、生活に悪影響があるため定住につながらない。 ★移動販売車などの取組は採算が合わない、経営から撤退してしまう可能性があるため、定住につながらない。	☆都市部への通勤や買い物に不便が無くなることで、田舎に住みたい人が移住してくる。 ☆子育て支援政策によって、経済的に安心して子育てしたい世帯が移住してくる。 ★子育て支援などの取組は期限が設けられている場合があり、移住するほどの魅力にならない場合があるため、移住につながらない。 ★過疎地は学校の統廃合が進んでおり、子育てに力を入れたい世帯から敬遠されてしまうため、移住につながらない。		
			産業の振興 ☆東北地方に多い伝統工業の技術をいかせる企業を誘致することにより、地元の雇用が安定し、定住につながる。 ☆IT企業を誘致することで、農業のIT化が進むなど、地元の産業の活性化にもつながり、定住につながる。 ★補助期間が過ぎて企業が撤退してしまったり、誘致した企業が倒産したりすると、従業員が失業してしまう恐れがあるため、定住につながらない。 ★巨大工場の進出は地元の中小零細企業の倒産・閉鎖を招く場合があるため、定住につながらない。	☆神山町のIT企業のように、環境のよさに魅力を感じて移住してくる。 ☆日本ならではの伝統工業を感じ、海外から東北地方に移住し、技術を学ぶ外国人が増えている。 ☆企業誘致による補助金に魅力を感じて、工場を移転させる企業が出てくるため、従業員やその企業で働きたい人が移住してくる。 ★企業は労働力の確保を重視しており、企業誘致は余り進んでいない現状があるため、移住につながらない。 ★海外の方がコストが安いいため、海外に工場を移転させる企業が増えているため、移住につながらない。		
	⑥	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	まちおこし・むらおこし ☆観光やイベントに多くの人が集まり、地域が活性化することで、定住につながる。 ☆特産物を売り出したり、ゆるキャラをつくり出すことで、産業として成り立つようになり、定住につながる。 ★観光客が増加しても、地域に直接的な利益がある場合ばかりではないので、定住につながらない。 ★地域外へのアピールを過度にしようとする、今までの生活文化が乱される可能性があるため、定住につながらない。	☆中国・四国地方や東北地方に足を運ぶきっかけになり、愛着をもってくれた人が移住してくる。 ☆東北地方には祭りが多く、祭りをまちおこし・むらおこしに利用して観光客を増やし、地域の魅力を伝えることで、移住につながる。 ☆「地域おこし協力隊」として過疎地の活性化に協力したいという人が移住してくる。 ★観光客が増加しても、イベントや特産物を楽しみに訪れるだけなので、移住につながらない。 ★地域おこし協力隊は地元の温度差によってうまくいかない場合もあり、移住につながらない。		
⑦	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、地域内と地域外の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。		
		B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。		
		方法 ○発言の内容(④・⑤) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑥・⑦) ○「ステップチャート」の記述内容		
考えを創り上げる場 【収束的思考】	⑧	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば過疎化を止めることができるか」について考える。【RM①】 概念的知識「地域内の人々が定住したいと思うような生活しやすい環境が生まれ、地域外の人々が移住したいと思うような魅力があれば、過疎化を止めることができる」	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口A「インフラ整備」を選んだ生徒の主張例 ・人がその場所にずっと住み続けるには、インフラが整備され、利便性がある住みやすい場所であればならない。中国・四国地方も東北地方も、都市部から離れている場所で過疎化が進んでいるため、交通網が整備され、病院や学校など生活に必要な施設がつけられれば、高齢になっても住みやすい地域になり、移住する人も増えると考えられる。 切り口A「インフラ整備」の主張に対する反論例 ・子育て支援の補助は期限付きの場合があるので、長く定住しようと思う人には魅力にならないのではないか。また、交通網や施設の建設など、インフラ整備には多大な費用が掛かり、実現は難しいのではないか。 切り口A「インフラ整備」を選んだ生徒の再反論例 ・子育て支援だけでなく、移動販売車など高齢者に対する支援もあるので、老後も安心して住むことができる。確かに費用は掛かるが、移住する人や定住する人が多くなれば、費用をカバーできるような経済効果が期待できる。また、ドクターヘリやインターネットによる遠隔医療の充実などは、それほど大きな費用が掛けないで整備できると考えられる。 切り口A「インフラ整備」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口B「企業誘致」は地域内の人々にとっては企業で働く一部の人しか関わらないし、切り口C「まちおこし・むらおこし」は地域外の人々にとってはイベントなどに関心をもった一部の人しか関わらないが、切り口A「インフラ整備」は幅広い世代に関わるため、地域内の人々が老後まで安心して住めるようになるし、地域外の様々な世代の人々が移住してくる魅力になる。よって、概念的知識を満たし、追究課題に最もふさわしい切り口はA「インフラ整備」である。			
	⑨	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。				
	⑩	概念的知識を他の地域に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
		単元テストを行う。	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。	
	⑪	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法 ○発言の内容(⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑧・⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度												
考えをもつ場 【拡散的思考】	①	近畿地方の自然環境や地域区分，産業などをまとめ，近畿地方について大観する。	A ・資料を基に，近畿・関東・北海道地方に関わる基本的な事項をまとめ，地域の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について，切り口を考察し，比較した上で意思決定している。	・地域の特色を捉えた上で，追究課題を追究しようとするとともに，追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
	②	関東地方の自然環境や地域区分，産業などをまとめ，関東地方について大観する。															
	③	北海道地方の自然環境や地域区分，産業などをまとめ，北海道地方について大観する。	B ・資料を基に，近畿・関東・北海道地方に関わる基本的な事項をまとめ，理解している。	・追究課題について，切り口を考察した上で意思決定している。	・地域の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする，または，追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
		地域の特色を捉え，追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ，自己評価する。【拡M①】															
		追究課題「人々にとって最も魅力のある地域はどこか」 切り口A「近畿地方」 切り口B「関東地方」 切り口C「北海道地方」	方法 ○発言の内容(①～③) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(③) ○「ステップチャート」の記述内容												
考えを広げる場 【拡散的思考】	④	「近畿地方」の特色が，地域内の人々と地域外の人々に及ぼす影響について捉える。	地域の魅力につながる点(☆)・つながらない点(★)														
	⑤	「関東地方」の特色が，地域内の人々と地域外の人々に及ぼす影響について捉える。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>地域内の人々立場</th> <th>地域外の人々立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>近畿地方</td> <td>☆交通網が発達しており，京都・大阪・神戸と大都市がほぼ隣接しているため，利便性が高い。 ☆再開発が進んでおり，快適な環境で生活したり，仕事をしたりすることができる。 ★阪神・淡路大震災の被害を受けた地域であり，大きな災害への備えが必要である。 ★京都や奈良の市街地には，景観や歴史的建造物を守るために様々な規制があり，生活しづらい。</td> <td>☆京都や奈良には，有名で歴史の古い建造物や，レジャー施設や観光地など活気がある場所が点在し，国内外を問わず訪れる人が多い。 ☆2025年には大阪で万博が開かれることになっており，新しい魅力が増えることが期待できる。 ★東京への一極集中が進んでおり，大阪にあった本社を東京に移す企業が増えている。 ★都心部は土地が狭く，移住しづらい。</td> </tr> <tr> <td>関東地方</td> <td>☆関東地方は交通網が日本で最も発達している地域であり，利便性が高く，住みやすい。 ☆様々な企業の本社や省庁，大学などの教育機関が集まっており，通勤・通学に便利である。 ★過密化で人口が集まりすぎており，道路や鉄道が常に混雑して移動がしづらい。 ★災害に対する心配やヒートアイランド現象などにより，生活に環境面の不安がたまると。</td> <td>☆様々な情報や流行の発信地であり，企業や店舗の数も他地域に比べて群を抜いて多い。 ☆交通網が集中しているため訪れやすく，観光地や宿泊施設も多いので，旅行先として人気がある。 ★都市機能が集中しており，災害などで都市機能が被害を受ければ，日本の他地域への影響は必至である。 ★都心部は土地の価格が高騰しており，経済的に余裕がないと移住できない。</td> </tr> <tr> <td>北海道地方</td> <td>☆農業・漁業がさかんで，食料が豊富にあるため，食生活に困ることがない。 ☆土地が広いので，のびのびと生活できる。 ★土地が広いわりに交通網が発達していないため，移動が不便である。 ★冬の寒さが厳しく，雪害や凍結への対策をしないと冬は生活できない。</td> <td>☆自然をいかした観光地やイベントが多くあり，観光地や避暑地として魅力的である。 ☆豊富な食材を食べることができ，現地に行って食べるだけでなく，インターネット等で取り寄せて食べる価値のある食材も多い。 ★都市圏からは遠く，訪れるのに費用がかかる。 ★観光地の環境の悪化が懸念されており，観光に制限がかかっている場所もある。</td> </tr> </tbody> </table>				地域内の人々立場	地域外の人々立場	近畿地方	☆交通網が発達しており，京都・大阪・神戸と大都市がほぼ隣接しているため，利便性が高い。 ☆再開発が進んでおり，快適な環境で生活したり，仕事をしたりすることができる。 ★阪神・淡路大震災の被害を受けた地域であり，大きな災害への備えが必要である。 ★京都や奈良の市街地には，景観や歴史的建造物を守るために様々な規制があり，生活しづらい。	☆京都や奈良には，有名で歴史の古い建造物や，レジャー施設や観光地など活気がある場所が点在し，国内外を問わず訪れる人が多い。 ☆2025年には大阪で万博が開かれることになっており，新しい魅力が増えることが期待できる。 ★東京への一極集中が進んでおり，大阪にあった本社を東京に移す企業が増えている。 ★都心部は土地が狭く，移住しづらい。	関東地方	☆関東地方は交通網が日本で最も発達している地域であり，利便性が高く，住みやすい。 ☆様々な企業の本社や省庁，大学などの教育機関が集まっており，通勤・通学に便利である。 ★過密化で人口が集まりすぎており，道路や鉄道が常に混雑して移動がしづらい。 ★災害に対する心配やヒートアイランド現象などにより，生活に環境面の不安がたまると。	☆様々な情報や流行の発信地であり，企業や店舗の数も他地域に比べて群を抜いて多い。 ☆交通網が集中しているため訪れやすく，観光地や宿泊施設も多いので，旅行先として人気がある。 ★都市機能が集中しており，災害などで都市機能が被害を受ければ，日本の他地域への影響は必至である。 ★都心部は土地の価格が高騰しており，経済的に余裕がないと移住できない。	北海道地方	☆農業・漁業がさかんで，食料が豊富にあるため，食生活に困ることがない。 ☆土地が広いので，のびのびと生活できる。 ★土地が広いわりに交通網が発達していないため，移動が不便である。 ★冬の寒さが厳しく，雪害や凍結への対策をしないと冬は生活できない。	☆自然をいかした観光地やイベントが多くあり，観光地や避暑地として魅力的である。 ☆豊富な食材を食べることができ，現地に行って食べるだけでなく，インターネット等で取り寄せて食べる価値のある食材も多い。 ★都市圏からは遠く，訪れるのに費用がかかる。 ★観光地の環境の悪化が懸念されており，観光に制限がかかっている場所もある。
		地域内の人々立場	地域外の人々立場														
	近畿地方	☆交通網が発達しており，京都・大阪・神戸と大都市がほぼ隣接しているため，利便性が高い。 ☆再開発が進んでおり，快適な環境で生活したり，仕事をしたりすることができる。 ★阪神・淡路大震災の被害を受けた地域であり，大きな災害への備えが必要である。 ★京都や奈良の市街地には，景観や歴史的建造物を守るために様々な規制があり，生活しづらい。	☆京都や奈良には，有名で歴史の古い建造物や，レジャー施設や観光地など活気がある場所が点在し，国内外を問わず訪れる人が多い。 ☆2025年には大阪で万博が開かれることになっており，新しい魅力が増えることが期待できる。 ★東京への一極集中が進んでおり，大阪にあった本社を東京に移す企業が増えている。 ★都心部は土地が狭く，移住しづらい。														
	関東地方	☆関東地方は交通網が日本で最も発達している地域であり，利便性が高く，住みやすい。 ☆様々な企業の本社や省庁，大学などの教育機関が集まっており，通勤・通学に便利である。 ★過密化で人口が集まりすぎており，道路や鉄道が常に混雑して移動がしづらい。 ★災害に対する心配やヒートアイランド現象などにより，生活に環境面の不安がたまると。	☆様々な情報や流行の発信地であり，企業や店舗の数も他地域に比べて群を抜いて多い。 ☆交通網が集中しているため訪れやすく，観光地や宿泊施設も多いので，旅行先として人気がある。 ★都市機能が集中しており，災害などで都市機能が被害を受ければ，日本の他地域への影響は必至である。 ★都心部は土地の価格が高騰しており，経済的に余裕がないと移住できない。														
	北海道地方	☆農業・漁業がさかんで，食料が豊富にあるため，食生活に困ることがない。 ☆土地が広いので，のびのびと生活できる。 ★土地が広いわりに交通網が発達していないため，移動が不便である。 ★冬の寒さが厳しく，雪害や凍結への対策をしないと冬は生活できない。	☆自然をいかした観光地やイベントが多くあり，観光地や避暑地として魅力的である。 ☆豊富な食材を食べることができ，現地に行って食べるだけでなく，インターネット等で取り寄せて食べる価値のある食材も多い。 ★都市圏からは遠く，訪れるのに費用がかかる。 ★観光地の環境の悪化が懸念されており，観光に制限がかかっている場所もある。														
	⑥	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ，自己評価する。【拡M②】【M①】	身 に 付 け さ せ た い 知 識 の 例	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について，地域内と地域外の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について，振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするともに，追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。											
⑦	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で，「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し，検討する。議論の中で出された意見を基に，自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ，自己評価する。【拡M③】【M②】																
考えを創り上げる場 【収束的思考】	⑧	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で，複数の立場の意見を踏まえて，どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り，「どのような地域であれば，魅力のある地域と言えるか」について考える。 【RM①】 概念的知識「地域内の人々にとって住み続けたい要素があり，地域外の人々にとって，他の地域にはない訪れる価値があれば，魅力のある地域と言える」	切り口B「関東地方」を選んだ生徒の主張例 ・関東地方は首都である東京を中心に交通網が最も発達している地域であり，利便性が高く，様々な場所へ移動しやすい。また，企業の本社や省庁，教育機関が集中しており，通勤・通学にも困らず，ビジネスや勉強のため，他地域から東京大都市圏に移住してくる人も多い。これは関東地方には住み続けたい要素が多く，他地域にはない施設が多くあるからだと考えられる。 切り口B「関東地方」の主張に対する反論例 ・関東地方は東京を中心に過密化が起こっており，道路や鉄道がいつも混雑している。首都圏に住んでいる人は仕事や勉強などのために仕方なく住んでいるのであり，住み続けたいという要素にはならない。 切り口B「関東地方」を選んだ生徒の再反論例 ・道路や鉄道が混雑しているのは事実だが，現在も新しい鉄道の路線や道路が次々に造られており，混雑が緩和されて生活しやすくなると考えられる。 切り口B「関東地方」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・関東地方は日本の人口の約4分の1が住んでいることから，住み続けたいと思う要素が多い地域である。また，地域外の人々にとっても，交通網が集中しているため訪れやすく，観光地や宿泊施設も多いので，旅行先としても人気がある。切り口Aの「近畿地方」は，歴史的建造物などは多く存在するが，他の地域にはないと言えるほどの魅力があるわけではないし，切り口C「北海道地方」は，旅行先としては魅力が多い地域だが，冬の寒さが厳しく生活の利便性も乏しいため，住み続けたい要素が少ない。よって，追究課題にふさわしいのは，切り口Bの「関東地方」である。														
	⑨	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて，どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について，概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに，追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
	⑩	概念的知識を他の地域に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ，自己評価する。【収M①】【M③】															
		単元テストを行う。	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について，概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする，または，追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
	⑪	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り，「単元レポート」としてまとめる。 【拡・収RM①】【RM②】	方法 ○発言の内容(⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑧・⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容												

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度												
考えをもつ場【拡散的思考】	①	中部地方の自然環境や地域区分、産業などをまとめ、中部地方について大観する。	・資料を基に、中部地方に関わる基本的な事項をまとめ、地域の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・地域の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
	②	地域の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	・資料を基に、中部地方に関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・地域の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
		追究課題「中部地方の地域的特色をいかすために、今後最も発展させるべき産業は何か」 切り口A「第一次産業」 切り口B「第二次産業」 切り口C「第三次産業」	○発言の内容(①・②) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(②) ○「ステップチャート」の記述内容												
考えを広げる場【拡散的思考】	③	「第一次産業」の発展が、地域内と地域外に及ぼす影響について捉える。	産業の発展につながる点(☆)・つながらない点(★)														
	④	「第二次産業」の発展が、地域内と地域外に及ぼす影響について捉える。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>地域内の立場</th> <th>地域外の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一次産業</td> <td>☆中央高地では冷涼な気候をいかしてレタスの抑制栽培がさかんに行われており、長野県は生産量全国1位であることから、今後も利益が見込める。 ☆北陸地方は日本の代表的な穀倉地帯となっており、米は日本の主食なので、今後も発展が見込める。 ★農業人口は減少を続けており、受け継ぐことが困難で、今後の発展は見込めない。 ★海外の安い農産品や水産品に負けて売れなくなってしまい、発展が見込めない。</td> <td>☆北陸地方特に新潟県の米は品質が高く信頼でき、日本全国から需要があるため、今後も生産を伸ばし続けることを望まれている。 ☆観光農園が増えており、観光と農業体験を一緒に楽しむことができるので、旅行先として需要が高まっている。 ★米は様々な地域で生産されており、新潟県などの北陸地方で生産されたものでなくても、高い品質のものが手に入るため、成長を必要としない。</td> </tr> <tr> <td>第二次産業</td> <td>☆愛知県や静岡県では自動車工業が盛んで、需要も高く大きな利益を生んでおり、中部地方の重要な産業となっているため、今後も発展が見込まれる。 ☆中央高地には立地の良さをいかして電子部品や自動車部品を生産する工場があり、今後も需要が高まる。 ★外国の製品との競争に負けてしまうと、発展が見込めない。</td> <td>☆愛知県の自動車工業は世界的に有名で信頼でき、今後も順調に生産を伸ばし、需要に応じていくことが望まれる。 ☆北陸地方の伝統工業や地場産業は技術力が高く信頼できるため、今後も生産を続けていくことが望まれる。 ★愛知県の自動車工業が発展しすぎると他地域の自動車工業が成長しないため、これ以上の発展は必要ない。 ★伝統工業の後継者が少なく、信頼ができない。</td> </tr> <tr> <td>第三次産業</td> <td>☆サービス業は従業者も多く、今も新しい業種が生まれており、今後の発展が期待できる。 ☆「名古屋めし」などのご当地グルメを発掘すれば、集客が見込めて、今後の発展が期待できる。 ★「レゴランド」が不人気で客が集まっておらず、赤字になってしまい、今後の利益が見込めない。 ★大都市である名古屋は魅力が少なく、観光地として発展するには難しく、今後の利益が見込めない。</td> <td>☆中部地方は地理的に東京と大阪の都市圏のどちらからでも訪問しやすく、観光客が集まりやすいので、観光業の発展が見込まれる。 ☆白川郷や金沢など、歴史のある地域が多く、それを魅力として外国人などからの人気が高まる。 ★中部地方には東京や大阪ほどの魅力はなく、リニア新幹線などで行きやすくなったとしても、頻りに訪れたいとは思わない。</td> </tr> </tbody> </table>				地域内の立場	地域外の立場	第一次産業	☆中央高地では冷涼な気候をいかしてレタスの抑制栽培がさかんに行われており、長野県は生産量全国1位であることから、今後も利益が見込める。 ☆北陸地方は日本の代表的な穀倉地帯となっており、米は日本の主食なので、今後も発展が見込める。 ★農業人口は減少を続けており、受け継ぐことが困難で、今後の発展は見込めない。 ★海外の安い農産品や水産品に負けて売れなくなってしまい、発展が見込めない。	☆北陸地方特に新潟県の米は品質が高く信頼でき、日本全国から需要があるため、今後も生産を伸ばし続けることを望まれている。 ☆観光農園が増えており、観光と農業体験を一緒に楽しむことができるので、旅行先として需要が高まっている。 ★米は様々な地域で生産されており、新潟県などの北陸地方で生産されたものでなくても、高い品質のものが手に入るため、成長を必要としない。	第二次産業	☆愛知県や静岡県では自動車工業が盛んで、需要も高く大きな利益を生んでおり、中部地方の重要な産業となっているため、今後も発展が見込まれる。 ☆中央高地には立地の良さをいかして電子部品や自動車部品を生産する工場があり、今後も需要が高まる。 ★外国の製品との競争に負けてしまうと、発展が見込めない。	☆愛知県の自動車工業は世界的に有名で信頼でき、今後も順調に生産を伸ばし、需要に応じていくことが望まれる。 ☆北陸地方の伝統工業や地場産業は技術力が高く信頼できるため、今後も生産を続けていくことが望まれる。 ★愛知県の自動車工業が発展しすぎると他地域の自動車工業が成長しないため、これ以上の発展は必要ない。 ★伝統工業の後継者が少なく、信頼ができない。	第三次産業	☆サービス業は従業者も多く、今も新しい業種が生まれており、今後の発展が期待できる。 ☆「名古屋めし」などのご当地グルメを発掘すれば、集客が見込めて、今後の発展が期待できる。 ★「レゴランド」が不人気で客が集まっておらず、赤字になってしまい、今後の利益が見込めない。 ★大都市である名古屋は魅力が少なく、観光地として発展するには難しく、今後の利益が見込めない。	☆中部地方は地理的に東京と大阪の都市圏のどちらからでも訪問しやすく、観光客が集まりやすいので、観光業の発展が見込まれる。 ☆白川郷や金沢など、歴史のある地域が多く、それを魅力として外国人などからの人気が高まる。 ★中部地方には東京や大阪ほどの魅力はなく、リニア新幹線などで行きやすくなったとしても、頻りに訪れたいとは思わない。
		地域内の立場	地域外の立場														
	第一次産業	☆中央高地では冷涼な気候をいかしてレタスの抑制栽培がさかんに行われており、長野県は生産量全国1位であることから、今後も利益が見込める。 ☆北陸地方は日本の代表的な穀倉地帯となっており、米は日本の主食なので、今後も発展が見込める。 ★農業人口は減少を続けており、受け継ぐことが困難で、今後の発展は見込めない。 ★海外の安い農産品や水産品に負けて売れなくなってしまい、発展が見込めない。	☆北陸地方特に新潟県の米は品質が高く信頼でき、日本全国から需要があるため、今後も生産を伸ばし続けることを望まれている。 ☆観光農園が増えており、観光と農業体験を一緒に楽しむことができるので、旅行先として需要が高まっている。 ★米は様々な地域で生産されており、新潟県などの北陸地方で生産されたものでなくても、高い品質のものが手に入るため、成長を必要としない。														
	第二次産業	☆愛知県や静岡県では自動車工業が盛んで、需要も高く大きな利益を生んでおり、中部地方の重要な産業となっているため、今後も発展が見込まれる。 ☆中央高地には立地の良さをいかして電子部品や自動車部品を生産する工場があり、今後も需要が高まる。 ★外国の製品との競争に負けてしまうと、発展が見込めない。	☆愛知県の自動車工業は世界的に有名で信頼でき、今後も順調に生産を伸ばし、需要に応じていくことが望まれる。 ☆北陸地方の伝統工業や地場産業は技術力が高く信頼できるため、今後も生産を続けていくことが望まれる。 ★愛知県の自動車工業が発展しすぎると他地域の自動車工業が成長しないため、これ以上の発展は必要ない。 ★伝統工業の後継者が少なく、信頼ができない。														
	第三次産業	☆サービス業は従業者も多く、今も新しい業種が生まれており、今後の発展が期待できる。 ☆「名古屋めし」などのご当地グルメを発掘すれば、集客が見込めて、今後の発展が期待できる。 ★「レゴランド」が不人気で客が集まっておらず、赤字になってしまい、今後の利益が見込めない。 ★大都市である名古屋は魅力が少なく、観光地として発展するには難しく、今後の利益が見込めない。	☆中部地方は地理的に東京と大阪の都市圏のどちらからでも訪問しやすく、観光客が集まりやすいので、観光業の発展が見込まれる。 ☆白川郷や金沢など、歴史のある地域が多く、それを魅力として外国人などからの人気が高まる。 ★中部地方には東京や大阪ほどの魅力はなく、リニア新幹線などで行きやすくなったとしても、頻りに訪れたいとは思わない。														
	⑤	「第三次産業」の発展が、地域内と地域外に及ぼす影響について捉える。															
⑥	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】																
⑦	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	A	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、地域内と地域外の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
		B	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。												
		方法	○発言の内容(③～⑤) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑥・⑦) ○「ステップチャート」の記述内容												
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑧	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どのような産業であれば、地域の特色をいかすことができるか」について考える。【RM①】 概念的知識「環境やそこに住む人の技術をいかして地域内に利益をもたらす、地域外からも多くの需要がある産業であれば、地域の特色をいかすことができる」	切り口B「第二次産業」を選んだ生徒の主張例 ・愛知県の自動車工業は、古くから発達していた繊維工業の技術を使って始まったものであり、地域の歴史と大消費地である東京大都市圏や京阪神大都市圏と距離が近いという地域的特色をいかした産業である。現在では、環境にやさしい自動車の開発など、さらに発展を続けており、中部地方の地域経済のためにも、今後も発展していくことが望ましいし、その可能性は十分にあると言える。 切り口B「第二次産業」の主張に対する反論例 ・確かに自動車工業は盛んだが、それ以外の産業も発展させていかないと、中部地方全体が発展しない。中部地方には自然が豊かで冷涼な中央高地や、稲作が盛んな北陸地方もあり、これらの地域的特色をいかした産業を今後さらに発展させていくことで、中部地方全体がバランスよく発展していくことができる。 切り口B「第二次産業」を選んだ生徒の再反論例 ・中部地方は、名古屋をはじめとして全体的に魅力が少ない地域と思われており、他の地域に勝るところは自動車工業や地場産業などの第二次産業である。今後も「ものづくり」を中心に発展を続けていくべきである。 切り口B「第二次産業」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・中部地方の経済は、自動車工業を中心とした第二次産業によって支えられており、今後もこれを継続していくべきである。切り口Aの「第一次産業」は後継者不足が深刻になっており、今後の大きな発展は難しい。切り口Cの「第三次産業」は、サービス業や観光業が中心となるが、中部地方には魅力的な観光地や訪れたくなるスポットが少なく、中部地方の地域的特色をいかせない。切り口Bの「第二次産業」なら、中部地方の環境や住む人の技術によって今後も地域内に利益をもたらすことができるし、地域外からの需要が増え続けていくと思われる。よって追究課題にふさわしいのは切り口Bの「第二次産業」である。														
	⑨	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。															
	⑩	概念的知識を他の地域に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】 単元テストを行う。	A	・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。											
			B	・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。											
	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法	○発言の内容(⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑧・⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容												

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考えをもつ場【拡散的思考】	①	古代や江戸時代の古地図や地形図(デジタル地図)などを活用して、自分たちが住む地域の特色について捉える。	A ・地形図の読み取り方などの地理的スキルを身に付けているとともに、資料を基に、自分たちが住む地域の特色や課題を理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・自分たちの住む地域の特色や課題を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
	②	自分たちの住む地域の課題を捉え、追究課題を確認する。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	B ・地形図の読み取り方などの地理的スキルを身に付けている、または、資料を基に、自分たちが住む地域の特色や課題を理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・自分たちの住む地域の特色や課題を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
		追究課題「よりよい地域にしていくために最も大切なことは何か。」 切り口A「観光業の促進」 切り口B「安全・防災対策の整備」	方法 ○発言の内容(①) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(②) ○「ステップチャート」の記述内容
考えを広げる場【拡散的思考】	③	「観光業の促進」が、地域内の人々と地域外の人々に及ぼす影響について捉える。	身に付けさせたい知識の例 観光業の促進 ★地元の観光資源の魅力が認識していないため、他地域に広める推奨度が低い。 ★コロナ禍により、観光業全体の利益が減少。 ☆地域住民に魅力を再認識させ、観光業を促進させることで、食料品産業や飲食サービスなど観光業以外の産業も活性化する。 ☆名古屋のアクセスの良さを生かし、宿泊の拠点としてアピールしていくで宿泊業を促進させる。 安全・防災対策の整備 ★犯罪発生率や死亡事故の件数が高く、安心して暮らすことができない。 ★南西部は埋め立て地や海拔が低い場所が多く、大地震の際には甚大な被害が出る。 ☆治安強化や事故対策をすることで、住みやすい町にすることができる。 ☆防災対策をすることで、生活や産業での被害を軽減することができる。	課題解決前の影響(★)・課題解決後の影響(☆)	
	④	「安全・防災対策の整備」が、地域内の人々の地域外の人々に及ぼす影響について捉える。		地域内の人々の立場	地域外の人々の立場
	⑤	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、地域内の人々と地域外の人々の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
	⑥	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。 議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
			方法 ○発言の内容(③・④) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑤・⑥) ○「ステップチャート」の記述内容
	考えを創り上げる場【収束的思考】	⑦	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。 これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、よりよい地域となるか」について考える。【RM①】 概念的知識「地域内の人々にとって暮らしやすく、地域外の人々にとって魅力を感じて結び付きが強まれば、よりよい地域となる」	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の主張例 ・地域内の人々にとっては、観光業が促進されることで、イメージが改善され、観光客が増えることで、観光に関連した様々な職種の人たちの収入が増え、暮らしやすくなる。地域外の人々にとっては、イメージが改善することで、多くの人が観光に行くようになり、結び付きが強まる。 切り口A「観光業の促進」の主張に対する反論例 ・なごやめしや名古屋城など今あるものをPRするだけでは、イメージは改善されていないし、新たな魅力を開発しようとする、多くの税金が必要になり、住民にとっては暮らしにくくなるのではないかと。 切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の再反論例 ・レゴランドのように、企業やテーマパークを誘致すれば、税金を使う必要はないので、住民に対して負担をかけることなく観光業を促進できるし、観光客が魅力を感じることもつながる。 切り口A「観光業の促進」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Bは、名古屋周辺の地形の特質上、南西部の震災対策には限界があり、住民にとって現状以上に暮らしやすくすることは難しい。また、治安や交通などを整備しても魅力が少なければ訪れたいと思う人は少ないので、地域外との結び付きを強めることはできない。それに比べ、切り口Aは、企業やテーマパークを誘致する方法で新たな魅力を開発すれば、住民に負担をかけることなく観光業が促進され、新たな雇用の創出や様々な職種の人たちの収入が増加することで、暮らしやすくなる。また、地域外の人々が自分たちの地域にはない魅力を感じれば、訪問志向が強まり、結び付きを強めることができる。	
⑧		【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの政策が最もふさわしいかを学級全体で議論する。			
⑨		概念的知識を他の地域に当てはめて考える。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】 単元テストを行う。	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
⑩		意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。 【拡・収RM①】【RM②】	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。
		方法 ○発言の内容(⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑦・⑧) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	